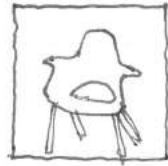


父はクワンパルク校長  
エリエル・サリネン

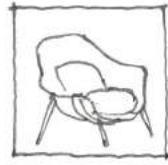
フローレンス・ツェスト  
(後のノル社創始者)  
と家族同然に育つ

建築作品

- TWA7ミナル (62)
- ダレス空港 (62)
- ツェアーソン記念碑 (64)
- ...



オーパ  
1940



ウ-ム 48  
Knoll社

オーパのデザインコンペ (MOMA - 1940)

イムズとトナリで争って応募 → 一等  
当時は製法上には至らざ → 後年 VITRA から

成形合板の3次元ツェル

新素材プラスチックの可能性

FRPの3次元ツェル に進化

「椅子は座る人の背景であるべき」

「椅子は室内で彫刻のように見えなければならぬ」

外形線にこだわる  
劇刻的発想

FRPの3次元ツェル  
+  
アルミダイキャスト脚

担当: ケヴィン・ローチ  
設計: アルバート・ツェルト



ミラー邸 1958

キューリットはミラー邸  
のためにデザインされた  
slum of legs.  
「足をすくまらせた!!!」

↓  
アルミスタール(一本脚)に  
ミラー邸では1/7アーモ  
埋め込まれている



アルミスタール/キューリット 1958

開発にあたり、  
フローレンス(Knoll社)が  
ド・ペティットを  
サリネン事務所に引出  
させ実現した\*

サリネンがこだわった点  
[ 脚の張り具合  
首の土端の木立  
モックアップを自宅で試す  
家族はモルモットのようだと

椅子のデザインに関する3つの視点。(by サリネン)

- 1 使用に際しての快適性の追求: 人間工学的視点
- 2 量産に適した材料や製法の重要性
- 3 普遍的な造形 (多くの人に受け入れられる造形)
- 4 椅子が使用される空間との関係を重視
- 5 椅子の脚部にも注目のデザイン

\* ド・ペティット

ジョージ・ケリッパ事務所  
勤務後、Knoll社の  
開発部へ。

ベルリンでケリッパ事務所  
勤務後、  
キューリットを開発  
サリネン事務所に  
引出した (1年?)

おんなの椅子 / アルミのデザイン VII

20220121  
20220404